

特 集

切除可能な Stage IV 胃癌 に対する外科治療

胃癌治療ガイドライン上、Stage IV 胃癌に対して推奨されているのは化学療法、放射線治療、緩和手術、best supportive care である。これに則れば、小さな肝転移が1個あっても、あるいは大動脈周囲リンパ節に腫大が認められても、根治を目標とした手術の適応にはならない。しかし、大動脈周囲リンパ節はかつては系統郭清の範囲内であった時代もある。

こうした一部の Stage IV 癌について、根治をめざした、すなわち郭清を伴う定型的胃切除術を行うことはあり得ないであろうか？

胃癌治療ガイドライン策定委員会では一部の Stage IV 胃癌について、根治をめざした手術を行う選択肢を提示すべく検討を進めていた。本特集では、それをもとに切除可能 Stage IV 胃癌の手術適応や術式について特集した。